

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること。	目的に応じて必要な情報を取り出して解釈すること。

児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手立て	手立ての実施時期	成果検証(2月)
<p>ア 1位数と1位数の求補の場面や求差の場面における減法の意味を理解し、減法の式に表すことを苦手としている。</p> <p>イ 問題場面の数量の関係を捉え、式や場面の絵や図に表すことに課題がある。</p>	<p>ア 求補の場面を、求差の場面と関連付けて減法として捉えられるよう、ブロック操作を繰り返し行う。また、求差の場面は、比較する2量を確認し、1対1対応が捉えやすいようにブロックを並べる活動を行う。</p> <p>イ 計算の意味や計算の仕方を考えたりすることができるよう、場面の様子を視覚化し、実際に手を動かしながら具体物や図、ブロック、おはじきを用いて考える活動を行う。</p>	<p>ア 5月～7月</p> <p>イ 5月～</p>	
<p>ア 乗法の意味を理解して計算することや、かけ算九九を定着することが苦手としている。</p> <p>イ 問題場面の数量の関係を捉え、式やテープ図に表すことに課題がある。</p>	<p>ア 乗法が用いられる場面を捉えられるように、ブロックや図を使って数の操作を繰り返し行う。</p> <p>イ 計算の意味や計算の仕方を考えたりすることができるよう、場面の様子を視覚化し、実際に手を動かしながら具体物や図、ブロックを用いて考える活動を行う。</p>	<p>ア 10月～</p> <p>イ 年間を通して</p>	
<p>アわり算の意味(等分除・包含除)を理解して、計算することを苦手としている。</p> <p>イ 問題場面の数量の関係を捉え、式や線分図・テープ図に表すことに課題がある。</p>	<p>ア 具体的な場面を通してわり算の意味を捉えられるように、具体物や図を使って数の操作を繰り返し行う。</p> <p>イ 問題場面から分かっていることや問われていることを捉えたり、必要な情報を取り出して考えたりできるように、具体物や図、テープ図を用いて可視化しながら考える活動を繰り返し行う。自分の考えをペアや小グループで説明し合う。</p>	<p>ア 5月～</p> <p>イ 年間を通して</p>	
<p>ア わる数が1位数や2位数で、わられる数が2位数や3位数の場合の計算を苦手としている。(わり算の筆算)</p> <p>イ 問題場面の数量の関係を捉え、式や線分図に表すことに課題がある。</p>	<p>ア 除法の計算が確実に身に付けられるように、授業の始めに復習問題に取り組む。課題が終わった児童からミラーシードやプリントに取り組み、習熟を図る。</p> <p>イ 問題場面から分かっていることや問われていることを捉えたり、必要な情報を取り出して考えたりできるように、式や線分図を用いて可視化しながら考える活動を繰り返し行う。</p> <p>具体的な操作活動を多く取り入れ、問題場面について気付いたことを書いたり説明したりする。</p>	<p>ア 5月～</p> <p>イ 年間を通して</p>	

第5学年	<p>ア小数の乗法及び除法の計算を苦手としている。</p> <p>イ問題場面の数量の関係を捉え、式や2本の数直線に表すことに課題がある。</p>	<p>ア小数の乗法及び除法の計算ができるように、整数の場合と同じ関係や法則が成り立っていることを生かしながら、小数の乗法及び除法の計算を繰り返し行う。</p> <p>イ問題場面から分かっていることや問われていることを捉えたり、必要な情報を取り出して考えたりできるように、式や数直線、線分図を用いて可視化しながら考える活動を繰り返し行う。自分の考えをペアや小グループで説明し合う活動を繰り返し行う。</p>	<p>ア6月～</p> <p>イ年間を通して</p>	
第6学年	<p>ア分数の計算や、図形の求積問題、割合を使った問題を苦手としている。</p> <p>イ問題場面の数量の関係を捉えることや課題を解決するために身に付けた技能を、思考の過程で適切に選択し活用することに課題がある。</p> <p>複数の図やグラフ、表を読み取ったり、事象の理由を数や言葉で説明したりすることに課題がある。</p>	<p>ア分数の仕組や計算の方法を理解させ、繰り返し練習する機会を設定する。図形の体積を求めることができるよう、学習した求積公式を教室に掲示し、定期的に確認できるようにする。割合の問題文から大事な情報を抜き取り、数直線に表す活動を繰り返し行う。</p> <p>イ問題場面から分かっていることや問われていることを捉えたり、必要な情報を取り出して考えたりできるように、式や数直線、線分図を用いて可視化しながら考える活動を繰り返し行う。</p> <p>複数の図やグラフ、表を関連付けたり、分かったことや考えたことをペアや小グループ、全体で説明したりする。</p>	<p>ア5月～</p> <p>イ年間を通して</p>	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書のデジタルコンテンツ（QRコード）を活用して練習問題を行い、習熟を図る。【個別最適】 一人一台端末を活用し、大型モニターで数の概念を視覚化して共有する。【協働的】 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体物や一人一台端末を操作して、数量の関係を可視化する。 【個別最適】 一人一台端末や大型モニターを活用し、児童の考えなどを提示し、考えた過程をみんなで共有する。【協働的】 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習内容の定着を図るために、ドリルアプリを活用し、自分の苦手分野を選択し、練習を積み重ねられるようにする。【個別最適】（高学年重点） 一人一台端末を活用して、自分や友達の考えを比較し、共通点や相違点を話し合い、自分の考えを深める。【協働的】 	<p>【学習過程】</p> <p>・「前時の確認⇒問題・めあての提示⇒教師の説明⇒理解確認（教え合い）⇒適用問題・発展問題の提示⇒自力解決⇒まとめ⇒振り返り」の流れを校内で統一し、毎時間同じ展開で授業を行う。</p> <p>【振り返り時間の充実】</p> <p>・授業で理解できたことを、自分の言葉で説明し合う時間を設定し、理解の定着を図る。</p> <p>・授業の最後に既習した内容を振り返り、自己評価し次時への学習に生かす。</p>